

浜松市の中山間地で低速超小型モビリティの実証実験を開始 ～1 人乗りミニカーで、地域の実情に合った高齢者の自立的な移動手段の実装を目指す～

ヤマハ発動機株式会社と国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学は、浜松市と共同で、2025 年 6 月 25 日から 9 月 17 日まで、同市天竜区水窪地区で低速超小型モビリティ(ミニカー)^{※1}を用いた移動支援の実証実験を実施します。

同実証実験は、地域活性化と高齢者の QOL (Quality of Life) 向上を目指し、安心して利用できる自立的な移動手段の普及を目指すものです。低速超小型モビリティ導入による外出促進効果や、低速車が実装され普及した際の交通円滑性等について検証を行います。

少子高齢化が進み、高齢ドライバーによる事故、免許返納による移動困難者の増加、また公共交通機関のドライバー不足など、人びとの移動や交通に関わるさまざまな社会課題がクローズアップされています。実証実験の対象地域である水窪地区は、浜松市北部の中山間地に位置し、特に高齢者の日常移動に課題のある地域の一つです。

今回の実証実験では、地域住民からモニターを募集し、低速超小型モビリティを 1 カ月間貸与し、モニターの交通行動観察や使用前後のヒアリング調査等を行います。実証実験車両には、ヤマハ発動機のアメリカにおける製造拠点 YMMC^{※2} 製の電動ランドカー「DR2-PTV」(国内未販売)をベースに日本の保安基準に適合させた車両を用います。定員 1 人、最高速度は時速 20km 未満。第一種原動機付自転車に区分されますが、運転には普通自動車免許が必要です。



中山間地の水窪地区(浜松市)で行われる実証実験



ランドカーをベースにした実験用車両

ヤマハ発動機では、地域のラストマイル移動サービスとして 2014 年からグリーンスローモビリティ^{※3}の普及に取り組んでいます。今回の実証実験では、アメリカの一部地域でコミュニティ内移動に使用されている PTV (パーソナル・トランスポーター・ビークル) を用い、地域のニーズに合った高齢者の自立的な移動手段としての社会実装を目指しています。岐阜大学では、実証で得られるアンケートデータ、車両挙動データの分析を通じて、社会受容性や交通安全性の検証など、社会実装に向けた貢献を行います。

※1 超小型モビリティは、自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる 1～2 人乗り程度の車両。

ミニカーは、超小型モビリティのうち、第一種原動機付自転車の満たすべき定格出力・大きさ等を満たしているものであり、乗車人員は 1 名。

※2 Yamaha Motor Manufacturing Corporation of America

※3 時速 20km 未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービス。その車両も含めた総称。

■本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先

ヤマハ発動機株式会社 コーポレートコミュニケーション部 広報グループ

Tel: 0538-32-1145

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学 工学部社会基盤工学科モビリティアナリティクス研究室

Tel: 058-293-2598

Web <https://www.gifu-u.ac.jp/> (大学)、<https://www.eng.gifu-u.ac.jp/syakaikiban/> (工学部社会基盤工学科)